

# 国立国会図書館 月報

NATIONAL  
DIET  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2021.5/6



国立国会図書館にない本 特価本目録は庶民読書の証言者

国立国会図書館七十年記念館史を刊行しました

あの人蔵書 白井文庫

# 国立国会図書館 月報

NO. 721/722  
MAY/JUNE  
2021  
CONTENTS

- |    |                                                         |    |                                     |
|----|---------------------------------------------------------|----|-------------------------------------|
| 1  | 『波斯神話』<br>—若き日のアララギ派歌人とイランの英雄叙事詩—<br>今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から | 16 | 本屋にない本<br>『めんください、足尾のこと教えてくさい！ その2』 |
| 6  | 国立国会図書館にない本<br>特価本目録は庶民読書の証言者（後編）                       | 22 | 館内スコープ<br>タイムスリップ1998―2018          |
| 17 | 国立国会図書館七十年記念館史を刊行しました                                   | 32 | N D L<br>T o p i c s                |
| 24 | あの人の蔵書 第4回 白井文庫                                         |    |                                     |
| 30 | より便利に！ 国立国会図書館の書誌データ                                    |    |                                     |



表紙：川西英 画『郵政』8巻6号  
1956.6 30cm  
<請求記号 Z5-95>

# 『波斯神話』

—若き日のアララギ派歌人とイランの英雄叙事詩—

緒方 佑衣



標題紙。



(右上) イラン東北の町トゥースの墓所にあるフェルドウスィー像 (2016年、筆者撮影)。フェルドウスィー (Ferdousi 940?-1025) はトゥースの地主階級の生まれ。シャー・ナーメ執筆以前についてはよくわかっていません。また、完成したシャー・ナーメを君主に捧げるも報われず、失意のうちに郷里で没したと言われています。

(上) 土屋文明の肖像。

土屋文明 著『放水路 自選歌集』改造社 昭11<請求記号 720-112>

## 波斯神話

ファイルダウシー 著、土屋文明 訳 向陵社 大正5序 516p; 19cm<請求記号 355-67ろ>

波斯——この言葉から思い浮かべるものは、猫や遺跡、ラクダの隊商、はたまた正倉院に伝わるガラスの器……。人によって様々だと思いますが、今回ご紹介するのは神話。歌人土屋文明によって大正5(1916)年に刊行された、日本初のペルシアの神話の本です。

ペルシア神話——イランと周辺地域(ペルシア語文化圏とも言えます)に伝わる神話——のうち、本書では主に、フェルドウスィーという詩人が書いた英雄叙事詩『シャー・ナーメ(王書)』の物語が訳出されています。

シャー・ナーメは1010年、つまり枕草子や源氏物語と同じ頃に完成しました。約6万もの対句からなるイランの諸王と英雄達の生い立ちや戦争に冒険、恋愛を綴った英雄叙事詩です。著者のフェルドウスィーはおよそ30年をかけたこの大叙事詩を執筆しました。

シャー・ナーメはイラン版の記紀、といemezジすると日本人には分かりやすいかもしれません。伝承を集め、最初の王カユマルスカからヤズドゲルド3世までの、神代、英雄の時代、人々の時代に渡るイラン諸王の「歴史」が記され、後世の人々にはその古い時代が、古事記の神々や英雄たちの話のように「神話」と認識されるようになりました。

シャー・ナーメは時代が下るにつれ、イランの民族的な叙事詩として好評を博し、広く





(上) ジャムシード王はシャー・ナーメで最も偉大で有名な王の一人です。しかし、王の奢った心は彼に悲劇を招き寄せます。イランではベルセポリス遺跡のことをタフテ・ジャムシード（ジャムシード王の玉座）と呼び、彼が持っていた杯ジャーメ・ジャム（ジャム（ジャムシード王）のジャーメ（盃）の意）は、世界を見渡せると言われ、イランの新聞の名前にもなっています。

(下) フェリドゥーン王の話は、隠れて牝牛に育てられた王家の血を引く子どもが、青年となって自分の素性を知り、両肩に人食い蛇の生えた悪王ザッハークを打ち倒す、王道の英雄物語。また、彼の3人の王子に国を3つに分けて譲ったことで、イラン、トルコ（トゥーラーン）、ギリシア（ルーム）という3つの国ができ、この後の悲劇や戦いに繋がっていきます。



## ペルシヤ神話

### 一 カイウー

#### マース

バスターナーメに記された古代の傳説によると、最初に法典を制定して、波斯の王としての職を行つたのはカイウー・マースであつた。彼は山の間に住んで居て、著物は獣皮で作られて

イラン最初の王、カユーマルスは獣（豹）の皮衣を纏った王です。愛息が敵対する悪魔親子に殺されてしまいますが、後に第2代目の王となる孫フーシャングが動物たちを率いて敵を討ちます。

人口に膾炙するようになりました。現代イランにおいても、国民的な文学として重視されるだけでなく、古式体操の拍子をとる時に使ったり、広場の名前になっていたり人々の生活に溶け込み親しまれています。

日本では、明治時代前半から、世界の歴史や宗教等を紹介した本でペルシア神話の存在に触れている例があり、特にシャー・ナーメは部分的な翻訳も幾つか存在しましたが、ペルシア神話のみの本としてまとめられたのは、筆者が確認できた範囲では本書が初めてでした。

本書は36章中35章がシャー・ナーメから採られており、英語による抄訳である種本から更に抜粋した日本語訳で、有名な部分である、神話的要素の強い古代の諸王の話と、英雄の時代の話、特にイラン最大の英雄として名高いロスタムにまつわる冒険や戦争、ロマンス物語が収録されています。また、最後の36章目のみ、ゾロアスター教の文献であるヴェンディダードの抄訳であり、世界の始まりなどのゾロアスター教の神話を取り上げています。

冒頭で、本書を翻訳したのは土屋文明、と見て、短歌に詳しい方は「あれ？」と思ったのではないだろうか。文明は、実感的、生動的、即物的な作風の短歌と、万葉集の研究で知られ、アララギ派の中心として活躍した

## 『波斯神話』の広告

『アララギ』の2月号に『波斯神話』の新刊紹介と島木赤彦からのコメントが掲載されています。なお、広告は1月号にも掲載され、その時は版に言及がありませんでしたが、2月号では第2版となっており、増刷される程度には売れた模様です。



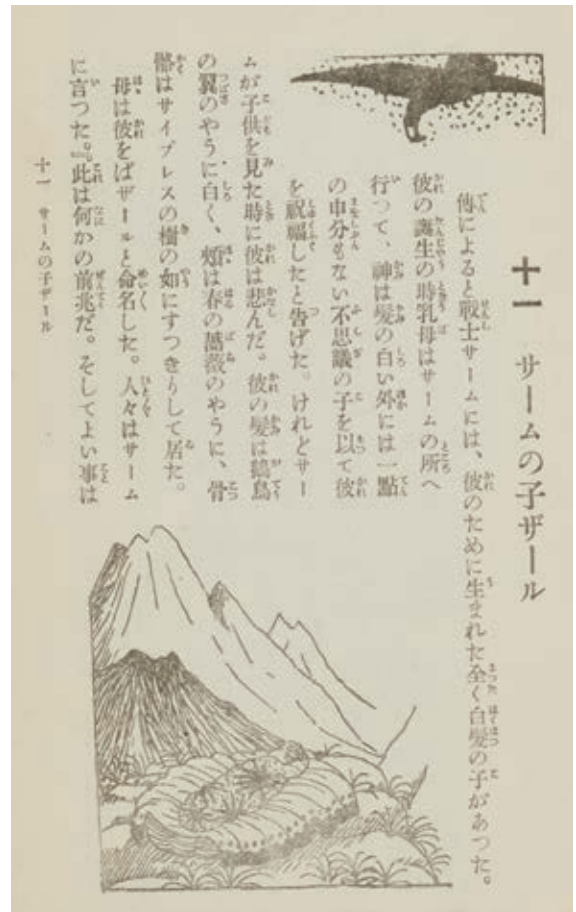
『アララギ』10巻2号 アララギ発行所 1917.2<請求記号 Z13-60>

(右) 島木赤彦による紹介文。

(左) 巻末の出版物紹介より。

(右上) 生まれつきの白髪を恐れた父サームに陰しいアルボルズ山に捨てられたザールは、霊鳥スィーモルグの養育により優れた青年に育ちます。美しいルーダーベ姫との恋に落ちるも、姫が悪王ザッハーウの一族であることからイランの王様に結婚を反対され……。イラン最大の英雄、ロスタムの父ザールの青年時代の物語。ザールとルーダーベのエピソードは、なんと漫画に翻案されています。シャー・ナーメを元に、著者がアレンジを加えた物語になっているので、本書と併せて読むと、「おお！ このキャラクターをこう解釈するのか！」と2度美味しい。諏訪緑 著『西(シナル)の国の物語 ペルシア神話より』小学館 2010<請求記号 Y84-J20028>

(右下) イランの王様も賢王ばかりではありません。カーウース王は様々なトラブルを巻き起こしては、英雄ロスタムに助けられます。この挿絵では、玉座に鷲を繋いで空の散歩を楽しんでいます、さてこの後のことまで考えているのかと言うと……。



歌人です。地に足の着いた印象の歌人とは、はるか遠くペルシアの神話の間に一体どんな繋がりがあったのでしょうか。

18歳の時に歌の道を志し、歌人伊藤左千夫に師事し住み込みで働くため上京した文明は、左千夫の勧めで同年9月に第一高等学校(一高)へ進学します。裕福とは言えない出身の文明は、一高、東京帝国大学(東大)時代を通して、学資を左千夫等の伝手による援助に頼っており、自身でも翻訳や原稿書きのアルバイトを行う苦学生でした。

大正5(1916)年に文明は東大を卒業するも職を得られず、経済的に苦しい時期を過ごします。職を求める日々の中、内職として翻訳されたのが世界神話叢書の第2巻である本書でした。困窮の中、糊口を凌ぐ為に翻訳された本書について、文明の言及はほとんど見当たりません。学資援助者であった寺田憲に本書刊行を知らせ、献本する際の手紙と、後に東大卒業後について「それと、翻訳も一つ二つやりましたね。卒業したあと、そんなことしてね。翻訳だって、そう注文があるわけじゃないし」と述べたもの程度です。後に、散文ではなく短歌の道を選んだ文明にとって、本書はある種、若気の至りだったのでしょうか。

文明は、本書が刊行された大正5年までに詠んだ人生初期の歌を、大正14(1925)年に



重苦しく仰いで死に頼したソーラーブは云つた。

『あはれや私は、父を求めようと切望して此所へ来たが、それは私の命で贖はれた。たとへば前が大海の底深く隠れる魚であつても、或は又空高い星であつたにせよ。私の父は此の事を復讐しないでは置かないだらう。』

『お前の父は何といふのだ。』

『父の名はルステムと呼ぶ。そして母はサーモンガーンの王の娘である。』

此の言葉を聞くとルステムの眼からは此の世の絶てが消え失せて、彼は我を失つて地に倒れた。やゝあつて彼は甚く震へながら立ち上つて、苦悩のうちにソーラーブに尋ねた。

『お前の言葉の證據になるものを何か持つて居るのか。此の私こそはルステムであるが。』  
『何故かに私の心には始終戀の知らせがあつた。けれど私は貴所から確かにそれと聞くことが出来なかつた。證據を求めるなら、私の鎧を脱がして下さい。腕に母の結んでくれた御符があるでせう。その御符はルステムが他日非常の時に役に立つだらうと母に呉れたものです。』

その御符を見ることは父に取つては重苦しい打撃であつた。彼は心中に苦み苦んで叫んだ。

『何たる残忍な奸策であらう。此の奸策は私の子を殺した。私の實の子を殺した。何處にかうして自分自身の親身の子を殺した父があるだらうか。私は此の恐ろしい罪の恐怖から逃れることは速でも出来ない。寧ろ自分の息の根を止めた方がいからよいだらう。』

けれどソーラーブは、父に此の決心を思ひ止まらせて云つた。

『かうして死ぬのはこれは私の宿命です。貴所



ロスタムが敵国トゥーラーンの属国サマンガーンで、王女タハミーネとの間に設けた息子ソフラーブは、まだ見ぬ父をイラン王にしようとイランのカーウース王に戦いを挑みます。しかし、運命の皮肉にトゥーラーン王の姦計も加わり……。イラン最大の悲劇として有名な物語。

出した第一歌集『ふゆくさ』にはごく少数しか載せませんでした。散文を含むこの時期の作品は、自身の文学の在り方を模索するなか、茂吉らアララギ派の若手歌人達や第三次『新思潮』同人など同窓生ら、自然主義、エキゾチシズムに傾く文学的風潮の影響を受け、幻想的な要素、神秘主義、耽美主義など、後年の文明のイメージにはあまりない要素を持ち、どこことなく、ペルシア神話とも通じるころを感じます。道定まった後に振り返るには、あまりに青かつたのであろう若き日の一面や、英語で夫婦喧嘩をすると噂される程の英語力が垣間見え、興味深い本書ですが、翻訳の経緯も、シャー・ナーメとの出会いや感想も想像することしかできません。

ただ、偉大な王や英雄が戦争で大勝利を収める勇壮な物語の一方、度重なる異民族による征服の歴史を反映してか、多くの賢王や英雄に運命の皮肉が降りかかるシャー・ナーメの、「だから報連相、報連相を……怠るからああ……」と思わせる悲劇の起りつぷりは、なんだか歌舞伎とも似ていると筆者は思います。世の無常さ、物の哀れへの眼差し、さらに判官贔屓が日本人とも相通じるところがあるのか、本書の後にも度々、邦訳されました。物語としては知らなくても、例えば「アルスラーン戦記」シリーズ（田中芳樹著）の人名や神話の一部

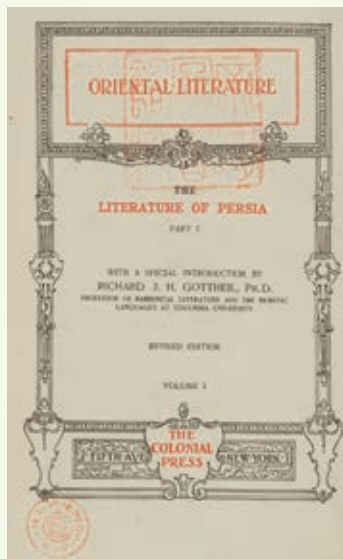


(上) トウースにあるフェルドウスイーの墓所。奥に見える墓の中は見学でき、美しいレリーフで飾られています。パフラヴィー朝時代には、様々な英雄が外敵を打ち倒すシャー・ナーメは、民族意識の高揚を促し国威発揚に有効であったため、作中に登場する英雄の名前が軍艦に付けられるなど、国家的に取り上げられました。この墓所も、生誕1000年祭にあわせて国家事業として整備されたものです。

(下) イランの首都、テヘランにあるフェルドウスイー広場で町の賑わいを見守るフェルドウスイー像。近くには地下鉄のフェルドウスイー駅も。

※2016年、筆者撮影（上下とも）

## 『波斯神話』の種本



当館所蔵のAtkinson訳シャー・ナーメのうち、明治40年購求のもの（他に大正4年購求のものもあり）。

*The Literature of Persia / with a special introd. by Richard J. H. Gottheil, Rev. ed.*, Colonial Press, 1900<請求記号 891.5-L776p>

pt. 1. *The Shāh Nāmeḥ*, by Firdusi (Abul Kasim Mansur), translated by James Atkinson. *The Rubāiyāt of Omar Khayyām*, translated by Edward Fitzgerald. *The Divan*, by Hāfiz, translated by H. Bicknell.

序文である「波斯神話小引」では本書のシャー・ナーメ部分はJames Atkinsonの散文・韻文交じりの本により、章題はそのまま用いたとだけ述べられています。詳しい書名や出版社はなく、Atkinson訳シャー・ナーメ<sup>6</sup>の、刊行（1832年）から文明が本書を翻訳した大正5（1916）年までに出版されたいくつかの版のうち、文明が見た版を特定することはできません。可能性が高いのは、文明の個人蔵書や、卒業したばかりの東大の蔵書あたりでしょうか<sup>7</sup>。しかし、Atkinson訳シャー・ナーメは、文明が本書を翻訳していた時期に当館の前身である帝国図書館にも所蔵されていました。少なくとも本文の内容は本書と同じなので、両者を見比べて、若き日の文明の翻訳の工夫を探ってみるのも良いかもしれません。

1 ペルシア語で「シャー」は王、「ナーメ」は書物や書状、手紙のことです。日本では訳して「王書」と呼ばれることも。現代イラン及び日本で最も知られているのはフェルドウスイーのものですが、他にも同名の書を著した人がいるため、誰々のシャー・ナーメと示すことが一般的です。とはいえ、本稿では煩雑さを避けるため、単に「シャー・ナーメ」としています。

2 例えば、ペルシアの世界の始まりについては『万国初』東井潔全 編 森本太助 明治9（<https://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/815018>）、シャー・ナーメは『万国史鑑第1編（東方古代・帝王国）』ウキルリアム・スウィントン（斯氏）著[他] 淡海書屋 明治19（<https://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/2931755>）に見えます。

3 『土屋文明書簡集』小市巳世司 編 石川書房 2001 p.46<請求記号 KH639-G428>

4 『歌あり人あり 土屋文明座談』土屋文明[述]、片岡貞美 編 角川書店 1979 p.9<請求記号 KG625-154>

5 『風塵乱舞』（アルスラーン戦記6）田中芳樹 著 角川書店 1989 pp.229-233.<請求記号 KH596-E248>

6 *Firdawsi, The Shāh Nāmeḥ of the Persian poet Firdausi, translated and abridged, in prose and verse, with notes and illustrations.* by J. Atkinson, Printed for the Oriental Translation Fund of Great Britain and Ireland; sold by J. Murray, 1832（当館所蔵無し。書誌情報はLibrary of Congress Catalogより）

7 文明の蔵書は空襲で焼けてしまっており、その全容はわかりません。現在の東京大学の蔵書（大正12年以前の蔵書は関東大震災で多くが焼失）には1886年刊行（推

定）のものがありますが、新型コロナウイルス流行の為、収集時期の調査はできていません。

### ○参考文献

「FERDOWSI, ABU'L-QĀSEM,」ENCYCLOPÆDIA IRANICA. <https://www.iranicaonline.org/articles/ferdowsi-index> 大塚和夫[ほか] 編『岩波イスラーム辞典』岩波書店 2002<請求記号 GE8-G15>

黒柳恒男 著『新ペルシア語大辞典』大学書林 2002<請求記号 KN72-G5>

大塚修 著『普遍史の変貌 The Transformation of the General Histories in Persianate Societies ペルシア語文化圏における形成と展開』名古屋大学出版会 2017<請求記号 G22-L11>

フィルドウスイー[著]、黒柳恒男 訳『王書 ペルシア英雄叙事詩』平凡社 1994<請求記号 KN76-E10>

フェルドウスイー 作、岡田恵美子 訳『王書 古代ペルシアの神話・伝説』岩波書店 1999<請求記号 KN76-G4>

土屋文明 著『羊歯の芽』筑摩書房 1984<請求記号 KH639-395>

「土屋文明」群馬県立土屋文明記念文学館 <http://bungaku.pref.gunma.jp/profile>

群馬県立土屋文明記念文学館 編『若き日の土屋文明あまた人々の恵みあり 第109回企画展土屋文明・生誕130年没後30年記念展』群馬県立土屋文明記念文学館 2020<請求記号 Y121-M5027>

土屋文明記念文学館 編『歌人土屋文明 ひとすじの道』塙書房 1996<請求記号 KG625-G43>

※URLの最終アクセス日：令和3年2月10日

※ペルシア語のカタカナ表記は『新ペルシア語大辞典』の読みに基づく。ただし、慣例による読みが一般的なものについては慣例に従った。

がシャー・ナーメに由来するように、創作などに「ペルシア風味」を加えるためのスパイスの宝庫として使われることもあり、本稿をお読みの方も、人生のどこかで実は触れていた、ということがあるかもしれません。ぜひ一度、その世界をのぞいてみてください。



# 特価本目録は庶民読書の証言者（後編）

国立国会図書館にない本

小林 昌樹

<前回のあらすじ>

明治30年頃、新刊書籍や雑誌の売れ残りを安く売る「特価本」が誕生した。露店や列車内など様々な場所で売られ、通信販売目録により地方でも買うことができた。

単なる新刊紹介がいつのまにか特価本目録になったものか。価格は定価の6割ほど。

特価本のエンドユーザたる読書人向けの目録の特徴は、タイトルに「読書」と銘打つものが多いこと、図版が入っていること、そして読書に関する記事が載ることである。「図書館を通じて見たる読書界の傾向」(B)は帝国図書館における出納数から人気図書を探るといふもの。育文館は「読書金言」を募集している(C)が、もし図書になっていたら、同時代の読書についての価値観がわかる資料になっていただろう。

薬草栽培や養鶏など実用書にならないで、21版を重ねた『ほれさせる法』というのが出ているが(D)、これは香山哲人『人心操縦法 心理応用』(東雲閣、1916)の改題か。元

育文館は、東京の京橋で『俳句と批評』という雑誌を出していた本屋。大正期も江戸期の延長で「本屋」は、出版、取次、小売り、古本売買を兼業するところが多かった。業者でなく読者向けの特価本目録としては古く、大正8(1919)年4月284号とあるので、月刊で逆算すると明治29(1896)年が創刊ということになるが、不詳。あるいは







帝国図書館（明治39（1906）年新築当時）

## つくり本とは？

「紙型本」とも言う。倒産した出版社などから放出された「紙型」（活版を型にした特殊パルプの板）を安く仕入れて来て印刷し、表紙やタイトルを換えて新刊書籍として売るもの。定価表示はそのままで原価がほとんどかからないので実際にはかなり安く売れる。

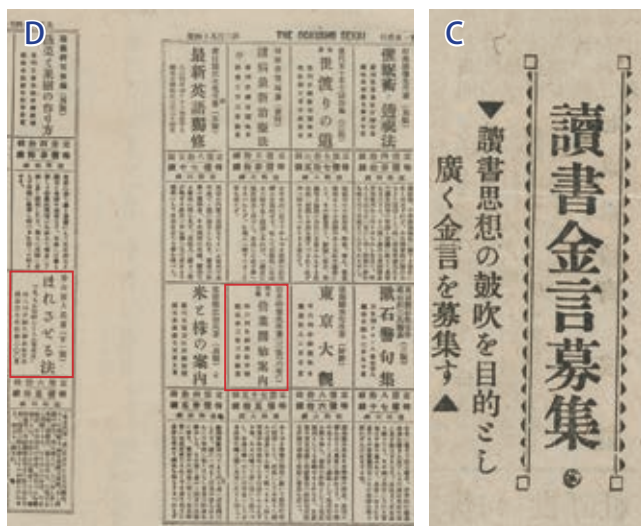
『読書世界』第284号 大正8（1919）年4月

A 表紙。

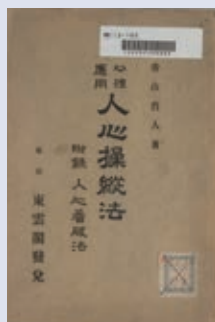
B 記事「図書館を通じて見たる読書界の傾向」。

C 読書金言募集部分。

D 主に実用書が並んだ目録。



## 国立国会図書館にある本



（右）石井研堂 著『独立自営営業開始案内 第3編』博文館 大正2 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/946261>（モノクロ画像）

（左）香山哲人 著『人心操縦法 心理応用』東雲閣 大正5 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/919096>（モノクロ画像）

版を見ると、中身は心理一般で、特価本となる際に、より売れるタイトルに改題・改装された可能性が考えられる。こういった必ずしも売れない本でなく、それなりに売れるものの紙型を仕入れて来て新版のごとくにして出版する本を「つくり本」といい、特価本の一つであった。

清口白羊著

國難

日本評論社發行

東京  
10-4-13  
內文

大正十五年九月一日發行 每月一回發行

讀 書 世 界

第 一 卷 第 九 月 第 二 號

新刊の良書を定價の半値段で賣つた爲に

書籍商組合より抗議と迫害を受けました

然し本社は文化普及と良書販賣の大目的の基にはあく迄窮苦と輕迫に耐へて書局の半値段販賣を實行します、どうぞ御後援を。

玆に御紹介致す良書は最早發行所より數十百回も新聞其他各般の機關によつて廣告せられし著名の大書局のみでありましてから詳細なる説明は申しません。然らば本社の舊物が御地方の書店で定価より一錢たりとも安く買えますか、否買へますまい。美しい新刊書です此新刊書を半値で賣るの何とも不厭煩でも罷法でもあります。つまり發行所に於て何干何百圓も作つたが寶藏品となつてゐる安く買ひ取つて是を賣出すので賣場り品ですから勿論安し且つ又安いわけです、此意味に於ける本社の勉強振りを御體恤御注意を願ふ。

数量最少不同程度品の部には他種御注意は必要。

| 著者      | 書名   | 裝幀       | 頁數 | 定價  | 大特價   |
|---------|------|----------|----|-----|-------|
| ジョン・パリス | さくも  | 三五版五頁白入  |    | 二六〇 | 一圓二十錢 |
| 村田豊義    | 思想の中 | 西六版八三〇頁  |    | 三九〇 | 二圓五十錢 |
| 溝口白羊    | 史談國  | 布製洋装四三〇頁 |    | 二八〇 | 一圓三十錢 |
| 飯田秋良齋   | 女の夢  | 布製洋装四三〇頁 |    | 二二〇 | 十錢    |

**E** 表紙の書名。  
**F** 冒頭の読者への訴え。

新刊の良書を定價の半値段で賣つた爲に  
書籍商組合より抗議と迫害とを受けました

然し本社は文化普及！良書廉賣の大目的の基にはあく迄妨害と戦ひ壓迫に耐へて書籍の半値段販賣を實行します、どうぞ御後援を！

茲に御紹介致す良著は最早發行所より數十百回も新聞其他百般の機關によつて廣告せられし著名の大書籍のみでありますから詳細なる説明は申しません

皆さん！是等の書物が御地方の書店で定價より一錢たりとも安く買えますか、否買へますまい、然らば本社では古本を賣るのかとの御疑念もありませうが本書は決して古本ではありません美しい新刊書です此新刊書を半値で賣るのは何も不思議でも魔法でもありません、つまり發行所にて何千何萬部と作つたが賣残り品となり頗る安く買ひ取つて是を賣出すので賣残り品ですから勿論美しく且つ安いわけです、此意味に於ける本社の勉強振りを御信賴御註文を願ひ

但數僅少不同故品切の節は他品御指定又は返金す

国立国会図書館月報 721/722号 2021.5/6



奥付とは別に、表紙や裏表紙に印刷される発行人などの情報。例えば「題号、発行の定日、逐号番号、発行年月日及「\*年\*月\*日第三種郵便物認可」といったもの。郵便規則や出版業界慣例などによって表示される。

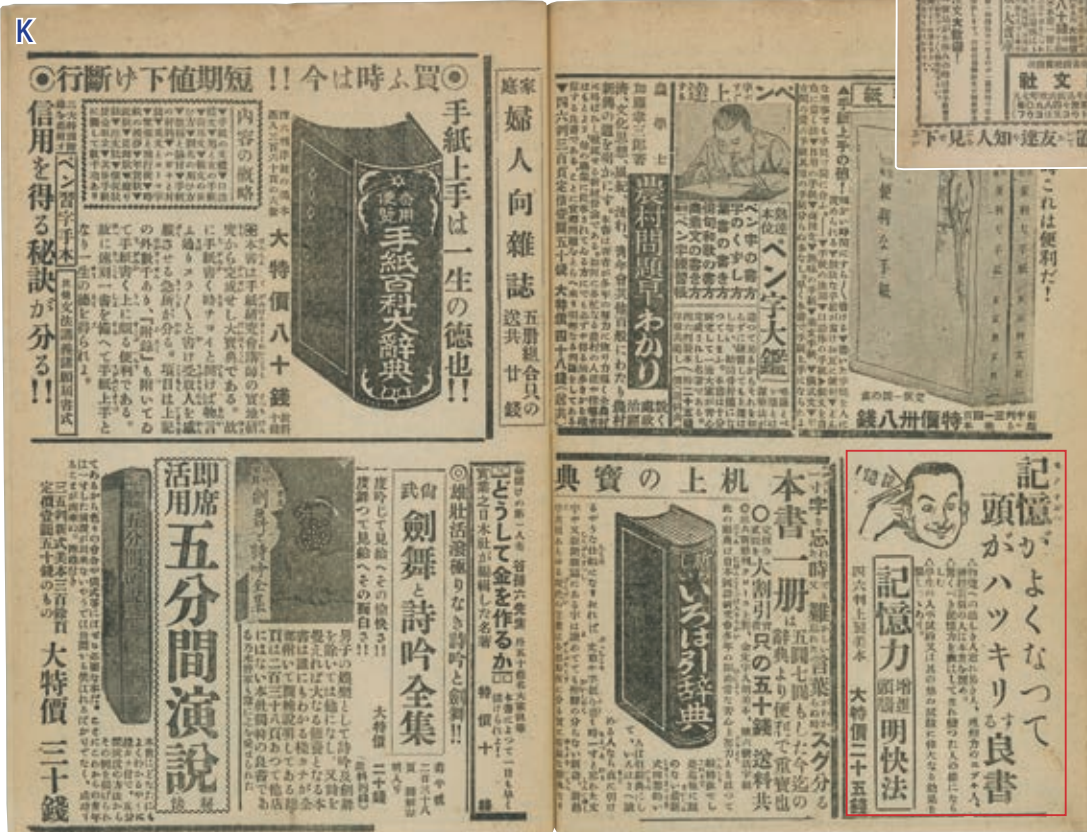
H 裏表紙に法定文字が記載されている。  
I 月遅れ雑誌の目録。



(右)『野球界』16(9) 野球界社 1926.7<請求  
記号 雑 35-83>  
(左)『少女画報』15(5) 新泉社 1926.5<請求  
記号 Z32-551>

発行した一元社は無名だが、めずらしく1部2銭の定価がついている。特価本目録。10万部を頒布しているがごとき記述が巻頭の文にある。大正15（1926）年10月発行。社名の「一元社」はオーナーが「林元式」だかららしいことが裏表紙の法定文字からわかる（H）。戦前の版元は多数の屋号を使い分けたので、こういった法定文字から所在地や名義人の情報を得て同定する必要がある。





『耕文社月報』第13巻第7号 [昭和4(1929)年]

J本の宣伝で埋め尽くされた表紙。下部には回覧のお願いも。

K主に実用書が並ぶ販売目録。

国立国会図書館にある本



(右) 山内秋生 編『手紙百科大辞典 実用便覧』手紙研究会 大正13 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/917749> (モノクロ画像)

(左) 日本雄弁演説学会 編『五分間演説秘法 即席活用』錦文堂 大正11 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/913746> (モノクロ画像)

## 耕文社月報

おそらく昭和4(1929)年の7月号。13巻7号とあるので、創刊は大正6(1917)年ということになる。表紙はなんとも俗っぽい、一般向けなので一応デザインがなされている。(K)で手紙の書き方本にならんで『記憶力増進頭脳明快法』といったものが売られている。スマホのない時代、記憶術は個人にとって実用品だった。同ページに卓上の用字便覧が出ているが、いろは引きで、やや古めかしい。こういった廉価版小辞典も特価本の枠で売られていたことがわかる。



『雑誌タイムス』第36号 大正15  
(1926)年2月

L表紙。中央には読者へのあいさつ。

M 公文社の店頭。

N 同じく公文社の倉庫。



『雑誌タイムス』第42号 大正15  
(1926)年8月

O表紙。以前より宣伝文句が強調されている。

P表紙裏には読者へのあいさつと雑誌を山と積んだ倉庫前の様子を写した写真。

# 雑誌タイムス(公文社)

大正15(1926)年2月発行

で36号とあるので、初号は大正12(1923)年ごろか。発行元は、仲御徒町にあった公文社という特価本屋である。珍しく店頭および倉庫が写真で掲出されている(M、N)。自社のトラックを持つっており、かなり手広く個人向け通信販売をやっていたことがわかる。

42号(1926年8月)は「誌上露店」と称し「肩のこらぬ読物」「読物か」を選んで満載し、露店気分たつぷりなる破格の安売均一販売を断行(P)とある。これは逆に、都市部では特価本の主たる小売り販路が

露店で、なおかつ常識化していたことを物語る。55号(1927年9月)では「十万タイムス読者」から投書を募集している。投書雑誌は原稿料が不要なので新興出版者がこころがける事業の一つだった。投稿者の住所から、郡部に読者を得ていたことがわかる。

一見大躍進の公文社も、手元の『雑誌タイムス』64号(1928年8月)になると、紙質が極端に悪くなっており、経営状態が悪化したことが見て取れる。通販は業績の浮沈が激しかったと言われ、この後、廃業したものでろうか。

P







Q『三水月報』8月夏季蔵号 昭和3（1928）年 表紙。



R『月刊読書新聞』5巻2号 昭和12（1937）年2月 表紙。



S、T 読書に関する随筆のコーナー。



## 三水月報／月刊読書新聞／読書新聞月刊大洋

三水社として始まる読書新聞大洋社は、戦前特価本屋の通信販売における雄といえよう。というのも、当初の一般向け特価本目録が月刊誌化し、似た名称で統制会社ならみの『日本読書新聞』（1937・1984）から敵視される勢いを示していたからである。

官報に残る広告によると、大正11（1922）年ごろ、月遅れ雑誌専門の通信販売業者として発足したらしいが、大正14（1925）年から雑誌や「作り本」なども出版しつつ事業を拡大、『月刊読書新聞』昭和12年2月号（R）が5巻2号なので、昭和8（1933）年ごろに『三水月報』を雑誌化したものと思われる。

現在の我々にとって通信販売目録が雑誌化したゆえのありがたみは、掲載された記事に地方の読書実態解明への手がかりが残されていることだ。例えば「読書雑感」欄で秋田の文人、石田玲水が「図書館の冊子」目録とカードは殆ど頭脳を駆けめぐつていづれを選ぶべきかといふ決定心を迷はすこと甚だしく」などと指摘する。

6巻9号（1938年10月）では「女学生と読書」というタイトルで六浦通應なる人物が、自分が管理する学校図書館の実態を報告している。蔵書の半分は文学書で、紛失するのも文学書だとなる。また「一般農村には図書館の設備も書店も十分でなくて、雑誌位しか入手できず」「概して農村家庭には『略』書籍にその消費を向けることを躊躇する」「女子が読書して理的になることを暗に好まな」といった実態が報告されている。

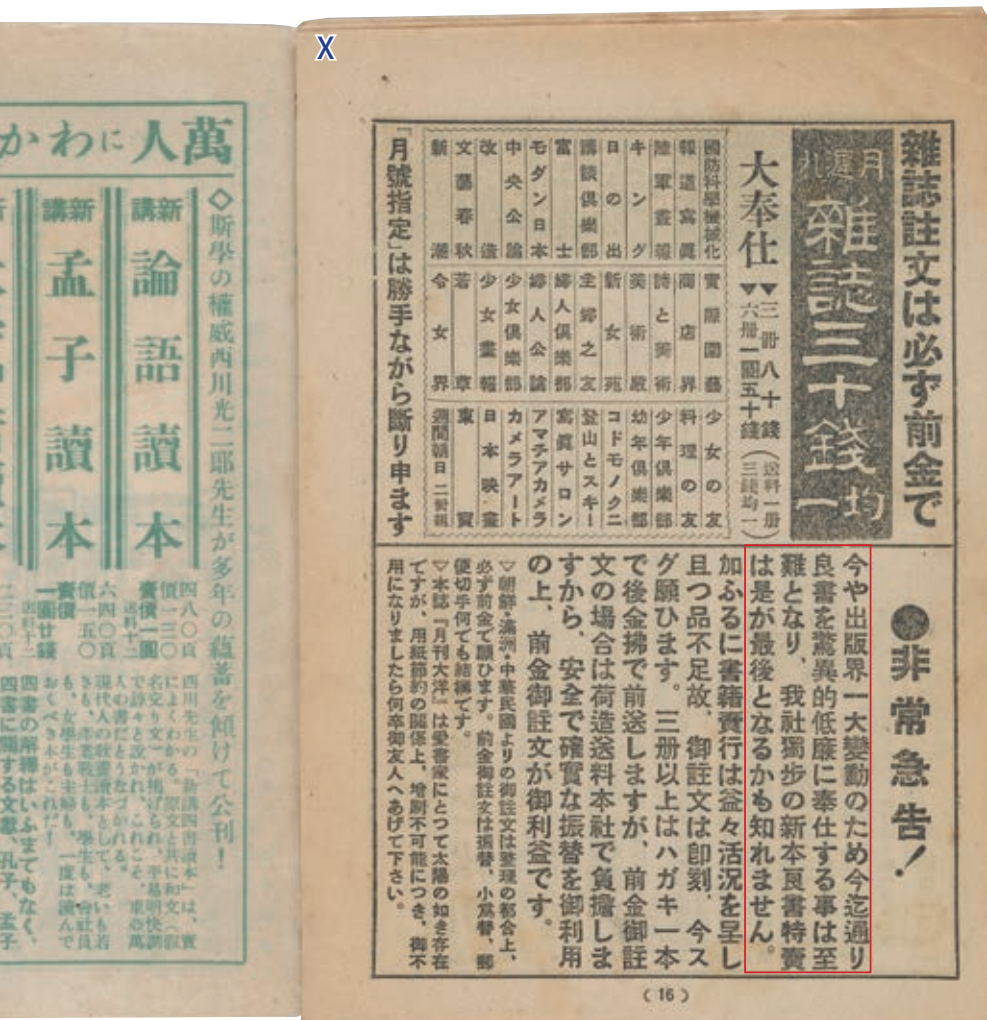
『日本読書新聞』（85）p. 1（1939. 6. 15）の「良書の敵赤本界を撃つ／出版界の好況に乗じ／インチキ赤本跳梁す／その魔手より読書文化を護れ」といった記事で名指しで批判された大洋社も、昭和15（1940）年になると紙不足で新刊の残本が出なくなり、いきづまり始める。おそらく同年に改題した『読書新聞月刊大洋』2巻7号（1941. 12. 1）を見ると「今や出版界一大変動のため今迄通り良書を驚異的低廉に奉仕する事は至難となり、我社独歩の新本良書特売は是が最後となるかも知れません」（X）とある。



『月刊読書新聞』5巻3号 昭和8(1933)年10月

U インパクトのある表紙。

V 一般読者の投稿も多く掲載されている。



『読書新聞月刊大洋』2巻7号 昭和16(1941)年12月

W 表紙。

X 表紙裏。切迫感があふれる宣伝広告。



## 戦時統制による特価本の消滅 と戦後の復活

昭和16（1941）年10月、戦時下で出版物を一元的に管理する日本出版配給（株）に外神田営業所が新設され、一時期は70軒を数えた特価本問屋も順次、これに統合され、太平洋戦争中に特価本流通は途絶えることとなった。すでに昭和13（1938）年に内務省が「児童読物改善ニ関スル指示要綱」という特価本中の赤本を排斥する指示を出しており、余剰や非正規を許さない戦時体制は、特価本と相いれないものであったといえよう。

終戦後、特価本問屋は御徒町などに多く復活し、地方からの買い出し客や露天商が仕入れに來たという。手塚治虫が大阪の赤本マンガでデビューし、『新宝島』が40万部もの当たり本となったのは、実は戦前の特価本市場が復活したことによるものだったが、この経緯が指摘されたのはごく最近のことである。戦後の特価本市場については『全国出版物卸商業協同組合三十年の歩み』（全国

出版物卸商業協同組合、1981）に詳しい。

## 例外的に当館で見られる特価本目録

特価本目録は「国立国会図書館にない本」だが、それでもなお例外的に当館で見られるものがある。それが、発禁になった目録で、昭和9（1934）年から昭和15（1940）年にかけて、「出版物ノ広告文中猥褻ノ箇所アルニ因リ禁止」になったものたちである。現在の感覚からいうと、どうということはないが、性科学書などを確かに「煽情的」なおり文句で売り込んでいた。

これらの目録は発禁になった後、内務省で保存されていたのが敗戦時に占領軍により接収され、めぐりめぐって今、現物はアメリカ議会図書館にあるが、マイクロ化されたものが当館の憲政資料室で閲覧できる。

これら発禁目録についての当局の見解は、例えば『趣味之友』2巻3号（東京 趣味之友社、1934.3）の発禁について、こんなコメントを

付けている。「本誌ハ誇大広告ヲナシ地方民ヲツラントスル不良本ノ広告ノミヲ輯録セル二十頁余ノ小冊子ニシテ<sup>1</sup>。まさにこのような史料が残りづらく、地方民の読書史を解明するのに貴重なのである。

発禁になった目録の一例

Y『読書之友』3巻3号 昭和8（1933）年3月 表紙  
Z『読書春秋』6巻4号 昭和9（1934）年4月 表紙



うっすらと「禁止」の二文字が見える。

「猥本紹介風壞要注意箇所多キニ付禁止可然哉」と検閲官の印がある。

- 1 「数物問屋（見切本／月遅れ雑誌）『古本年鑑（1936,7年版）』古典社 1937 pp.16-18<請求記号VG1-H1750>。大空社による復刻版（1994）<請求記号UP27-E5>がある。
- 2 宮本大人「昭和戦前・戦中期における子供漫画出版の基盤形成」『出版研究』（50）pp.47-69（2019）<請求記号Z21-279>
- 3 例えば『読書之友』3巻3号（錦文堂出版社、1933.3）は、次のマイクロフィルムにある。Censored Japanese serials of the pre-1946 period [1] / 日本占領関係資料 Library of Congress Photoduplication Service 1989<請求記号MOJ-76, R.4>
- 4 『出版警察報』67号（1934.3）p.75<請求記号Z21-1169>

国立国会図書館にある本



(右) 森田草平 著『のんびりした話』国文館 昭和 10  
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1242661>  
 (左) 井上円了 著『妖怪学』山内書院 昭和 6  
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1048958> (モノクロ画像)



【番外】浅草松屋七階書籍大廉賣  
 (帝国図書普及会)

これは通信販売用でなく、新聞の折り込み広告などとして頒布された目録である。こういった1枚物は残存しづらいのでここに紹介する。頒布元は帝国図書普及会といういかめしい名前だが、これは業界では伝説的な丸ビルでの即売会(昭和6(1931)年)を皮切りに、坂東恭吾(大正・昭和時代の出版経営者、1893・1973)が起こした特価本小売業者である。昭和10(1935)年のものか。東京のデパートなどを会場として、ど派手な宣伝で即売会を開いたので耳目を引いた。また西日本の各県や、台湾や朝鮮など当時の「外地」へ直接、特価本を運び込み、現地侠客と組んで書店の抵抗を排し、即売を行ったが、その投機性がたたって昭和10年に倒産してしまう。けれども坂東はその後も特価本業界に残ったので、テキ屋ばりの口上で、自分の活躍を後世に伝えた。彼が明治40(1907)年ごろ、水天宮の縁日で月遅れ雑誌販売を創始したという説も彼の武勇談から出ている。

(おしま)

\*本稿は筆者が当館在職時に執筆したものです。



# 本屋に ない本

——坑夫六年、ふき（製錬夫）八年、  
嬢（かかあ）ばかりが五十年——

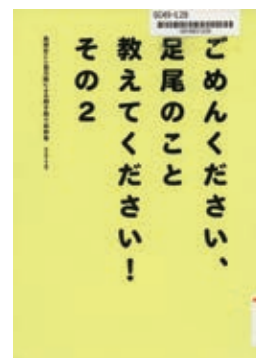
かつて「鉱都」とも呼ばれ、明治から昭和初期まで大いに栄えた、足尾銅山での労働を表した有名な唄である。落盤や落下、粉塵じん肺など劣悪な環境下での炭鉱・金属鉱山労働者の短命と過酷さは、国会でも取りあげられたほどだ。

製錬所が放出する有毒ガス、燃料確保のための森林伐採、鉱毒汚染による魚の死滅、土壌汚染や農産物の壊滅など、地域一帯の生活は100年以上に渡り、豊かさの栄華と公害の苦難という二重性を内包していた。足尾が近代化の象徴といわれる所以である。

その傍らで、住人たちが過酷な環境の改善に立ち向かい、あるいは苦難と

ともに生きる経験の智慧を集積し豊かな歴史を紡ぎあげてきたことは、見落とされがちであった。

本書は、総務省地域おこし協力隊と日本大学の好井裕明研究室等が平成25年から協同で行った、足尾の住人への生活史聞き取り調査の成果をまとめた一部である。「その2」の本冊子は、開発に伴い荒廃した山を再び緑化するために昭和32年から進められた治山と、48年の銅山閉山をテーマに、地域の暮らしを丁寧に聞きとっている。「ごめんください」とお宅をたずねることで、抽象的な足尾ではなく、その人しか知り得ない生活という具体性に向き合う。ここに記録された人びとの日常のあり様は、足尾の魅力的な歴史を伝える重要な史料に他ならない。



ごめんください、足尾のこと  
教えてください！  
地域おこし協力隊による聞き  
取り抜粋集 その2(2015)

日光市足尾地域おこし協力隊 編  
日光市足尾総合支所総務課  
2016.2 63p ; 21cm  
<請求記号 GC49-L28>

例えば、戦後から閉山期にかけ女性たちの働き口のひとつに緑化工事があった。朝5時前に起床し、家族全員の朝食と昼弁当を用意しトラックに乗り、炎天下の仕事場ではヨモギやアカシアなどの種子と土壌や肥料を固めた植生盤や石を担いだ。その重さは40kgにもおよんだという。夕方5時に家路につき、途中で明治時代から続いていた三養会（生協）で食材を買い、早々に夕飯を支度し済ませ、夜8時には閉まる共同浴場に駆け込み、さらに翌日の食事の下準備と洗濯を行う日々。嬢の五十年」の過酷さは決して「抗夫」に劣るものではなかった。

樹木がなく、土が水を吸収できない急峻な山の仕事場は地滑りしやすく、雨が3粒降ったらすぐさま逃げると教

えられていたという。また、石を運ぶまでに重い石に当たると目星がつくや否や、列を離れることもあった。生き抜くための智慧やしたたかさも石の数だけあり、受け継がれてきたのだ。

足尾銅山での生活に関する素朴な疑問をまとめた「その1」と昭和初期の足尾の繁華街に焦点を当てた「その3」を併せ読むと、それぞれの語りが重なり合うことで、重厚な歴史像が鮮明に迫ってくる。閉山後に足尾に残り過ごした人びとの生活の痕跡も消えつつある現在、語り手も聞き手も経験を次世代に継承しようとする意志を感じる。枯れた銅とは裏はらに、いや、ともすればそれを追いかけるように、一人ひとりの生きられた足尾の歴史は、今なお発掘を待っている。

（大島 岳）

※日光市ホームページの「日光市足尾地域生活史聞き取り事業」で内容が閲覧できます。

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。  
このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

## 国立国会図書館七十年記念館史を刊行しました



### 序章

- 第1章 国会活動を支える、発信する
- 第2章 収集対象の拡大
- 第3章 利用者サービスの変革
- 第4章 関西館
- 第5章 国際子ども図書館
- 第6章 図書館協力
- 第7章 行政・司法の支部図書館
- 補章 組織運営

平成30(2018)年に開館70周年を迎えるのを機に、平成29(2017)年から編さんを開始し、令和3(2021)年3月末に刊行しました。

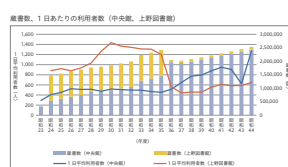
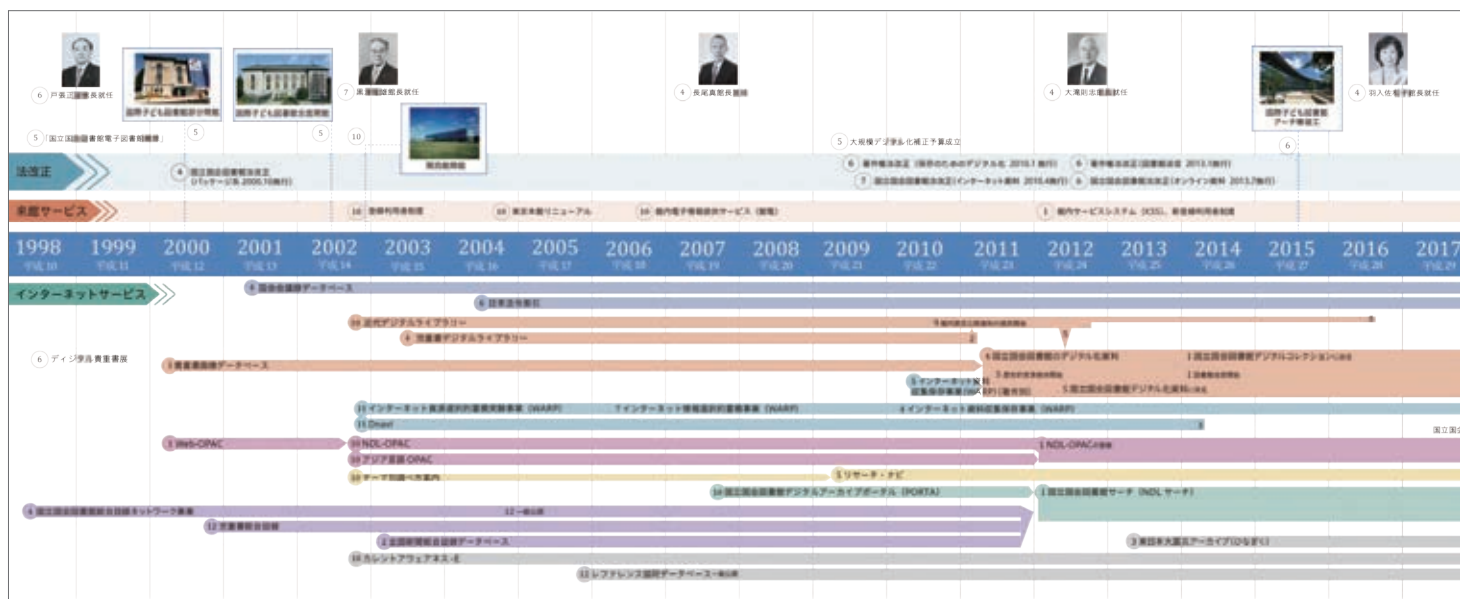
平成10(1998)年に刊行した『国立国会図書館五十年史』以降の20年間を主な対象とし、大きな変化、重要な出来事を取り上げ、深掘りした内容となっています。

この20年間で、収集対象は紙からデジタルに広がり、サービスもインターネットを介するようになりました。また、平成12(2000)年には国際子ども図書館を、平成14(2002)年には関西館を開館しています。

激動の20年間を振り返る一冊です。全国の主要な図書館や、国立国会図書館デジタルコレクションでぜひご覧ください。

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11645818>





## 2. 来館サービスの課題

昭和36(1961)年には同様に日本銀行が主となり、それぞれ3万円で発行した5000円の国庫券を流通させ、それぞれ1万円ずつの2枚を1万円と交換する制度を設けた。国庫券には、参加利率と額を定め、利用者の自由な利息と利率の選択を可能とする公債市場を創出した。国庫券の利息は、参加利率と額を自由に設定し、利用者の希望するより高率から貸出を促すという方式をとった。

また、利率の調節を図るに成功した以上、20世紀末に引きつらぬ「大赤字・大増大」を遂げた日本国債でも国庫券として活用しようとした。これによりより柔軟な金融政策を実践したので、国庫券の利付の範囲の拡大という目論見であった。ところが、国庫券の利付の範囲の拡大は、3分の1の国庫券は国庫債券の性質を失くしてしまふ。そのうちの2/3がたがひたは貸付利率と同じで変動するものを利用するものという結果であった。

昭和と昭和36(1961)年にゼックスという金融サービス会社と、国庫券の流通のコーディネーター(電子決済)が可能になり、国庫券の性質上の欠点をなくし、国庫券の目的が国庫債券と一致を齎すこととなった。国庫券の性質上、国庫券の発行に際しては、国庫券の



本報（現在の東京新聞の前身）で入館を待つ利用者（昭和6



よから、近代デジタルライブラリー トップページ(平成 21 (2009)  
年 6 月 30 日) (閲覧 775 / 2009.06.30) (報告 0000) (更新 0000)



グラフや表でわかりやすく

[illegible]

2「パッケージ」系電子出版物の複製

平成9年(1997)年1月、国立国会図書館は、館長の諮問機関として、出版関係団体の代表者、法律

今は無いシステムの画面キャプチャ

## 部分開館時の配置図

[illegible]



## ≫≫ 編さん委員長インタビュー

### 田中 久徳

副館長

国立国会図書館七十年記念館史編さん委員長

昭和62年4月 入館

平成7年4月 支部上野図書館

平成12年1月 国際子ども図書館資料情報課

平成13年4月 収集部収集課

平成14年4月 収集部収集企画課

平成17年4月 調査及び立法考査局文教科学技術課

平成19年4月 総務部企画課電子情報企画室長

平成22年4月 総務部企画課長

平成23年10月 電子情報部電子情報企画課長

平成24年4月 総務部副部長（総務課長事務取扱）

平成26年4月 電子情報部長

平成29年1月 総務部長

令和元年12月 副館長

——今回の七十年記念館史の特徴はなんだとお考えですか。

あらためて『国立国会図書館三十年史』『国立国会図書館五十年史』、また他機関の社史などを読むと、この七十年記念館史はかなり異色ですね（笑）。特定の事柄をかなり詳しく書いていて、まるで雑誌の特集記事のよう。どのテーマを選んだかということも含めて、最大の特徴と言えるのではないのでしょうか。

——読んで面白いものにしましよう、ということは最初の編さん委員会で決まりましたね。

そもそも刊行するかどうか、過去と同じスタイルで出すかどうかという議論がありました。でも、通りいっぺんの記録、事実から事実へのストレートな記述では、経緯をくみ取るのは難しいです。

——『国立国会図書館五十年史』が刊行されたときに比べると、『国立国会図書館月報』『国立国会図書館年報』もインターネット

トで読めますし、ホームページにも情報をたくさん掲載していますので、求められるものも変わりました。

前編さん委員長（山田敏之元調査及び立法考査局長）の主導のもと、監修者のみなさんと、一歩踏み込んだもの、読んで面白く、人間の取り組みが見える、ストーリーが感じられるものを目指すことに決めました。従来にない方針です。「どうしてそうなったのか」という込み入った動きを、丁寧に、背景も含めて記録として残すことができたと思います。特に、プロジェクトの進捗にフォーカスしました。この20年間は大プロジェクトの時代で、今までに経験のないことに直面しました。そのため、均等に項目を割り振ってはいません。大きな変化をもたらしたものに焦点をしばって、ミクロ的にもわかるようにしました。

国立国会図書館は、やるべきことが法律で明確になっている組織です。国会のため、国民のため、世界平和のため、資料を集めて提供し、後世に残す、それは変わらない。しかし、



根幹となる情報基盤が揺らいでいく中で、我々は何をすればいいのか、問われるようになりました。連動して関西館、国際子ども図書館ができました。どの構想も、情報基盤が変わってきたからこそ出てきたものです。社会や時代の要請に対応し続けるよう努力してきた、その記録が今回の七十年記念館史と言えるでしょう。上手くいったこと、いかなかったこと含めて。

——失敗したこと、採用しなかった案も書きました。

新しいサービスのときは試行錯誤が特に多かったですね。手段も要望も変わる中で、行きつ戻りつ、右往左往しました。どのプロジェクトも、結論ありきの一直線ではありません。議論を積み重ね、時には困り果てることもありました。ところで、自分の年齢だと、変化に対して鈍感になってしまうのですが、もし今20年前に戻って見たら、「こんなにも違うのか」と思いかもしれません。20年前の時点で今を見

てみたら「こんなこともできるのか」と思いかも。20年以上前に議論されていた、東西を一つの図書館として機能させるなんて、当時は途方もない絵空事でした。正直、ここまで進むと思わなかったこともあるし、こんなことがまだできていないのかと思うこともあります。

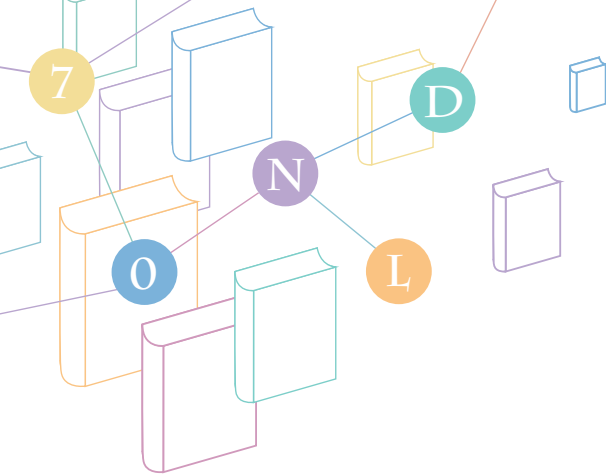
——若い人からしたら、20年前に使っていた砂鉄が入った磁気の利用カードなど、どう使うのか全く理解できないそうです。

今は、最初からそうだったかのように思ってしまうくらい便利になったし、多少不便な部分があってもそれなりに工夫できていますよね。20世紀後半から、情報技術の進歩がどんどん速くなってきています。いろいろ良くない問題もあるけれども、でも、それを解決するのも情報技術であることを信じて仕事をしていきます。

——はからずも、大規模な資料デジタル化事業がまた新たに始まりつつある時期の刊行となりました。かつての大規模デジタル

化事業<sup>①</sup>の際、電子情報企画室長、企画課長として携わられましたね。そのほかインターネット資料の収集<sup>②</sup>、保存のためのデジタル化<sup>③</sup>など、立て続けに変化のあつた時期でした。

私が電子情報企画室長に着任したとき、たまたま、長尾真館長が就任されたタイミングだったのですが、前任者から渡された引継ぎメモには、「新しく受け入れる資料はすべてデジタル化して利用し、原本は保存する体制をつくる。(長尾館長の就任は)この構想を実現する千載一遇のチャンス」とありました。国立国会図書館の電子時代を切り拓かれた長尾館長のご功績はとても大きいと思いますが、組織の中では主流ではなかったとしても、資料のデジタル化はずいぶん前から一貫して検討されてきた経緯がある。今回もちょうどまた巡って来たという感じがします。過去にあった議論が繰り返し受けるし、反動も大きいけど、紆余曲折してまた巡ってくる。やはり歴史は一直線ではないですね。



国立国会図書館は期待や要望をたくさん寄せてもらえる組織です。応えられない場合も多いですが、責任を果たしてきたかどうか振り返り、できていないことにも自覚的でありたいです。そのうえで未来がある。

——国際子ども図書館の設立にも関わられていましたね。

入館する前から児童書には興味があつて、個人的に児童文学評論の研究会に入っていました。国立国会図書館の役割に照らすと、子ども向けの本は文化資産として永く後世に残すべきものです。その役割があるはずなのに、やってこなかった。昔からそのことを問題にしている先人たちがいました。たまたま自分はそのことを知ったので、先人のバトンを引き継ぎ、職員としてできることをしようと思いました。先輩や、子どもの本の世界を支えてきた方の思いの何分の一かでも実現できればと。大きな動きにたまたま遭遇しただけですが、実現を見ることができたのは、幸運なことでした。

今回の七十年記念館史は、固有名詞は出てきませんが、担当した職員、外で支えてくださった方、多くの人の動きの中で歩みがあることを重視しています。課題がいつべんに解決することはなくて、大事で、やらなければならぬのに積み残されていることはたくさんあります。それに対して思いを持った人がいっぱいいて、少しずつ変わっていく。個人の思いだけでものことが進むわけではなく、みんなで知恵を出し合つて、それぞれの人が貢献していく。国際子ども図書館にしても電子図書館にしても。

——昔からつながってきた思いをつなげていくというのは、館史の編さんと重なりますね。

そうですね。記録に残すこと、本を残すこと。国立国会図書館は、現在の価値だけではなく、後世に向けて開かれている、そのことを公然とうたっている珍しい組織じゃないかと思います。保存とは未来を考えるとということです。後に残ること、後世

の役に立つことを信じながら仕事ができる、そんなやりがいを感じられるチャンスがある職場はそう少ないのではないかと。我々は恵まれていると思います。

——最後に一言お願いします。

今回、いろいろな形で取り組んできた、担当している人にしかわからなかったようなことを記録に残すことができました。世の中の人に共有していただき、興味を持っていただければ、と期待しています。

聞き手：総務課編集係

- (1) 平成21(2009)～23(2011)年に実施。
- (2) 平成21(2009)年7月、国立国会図書館法の改正により、公的機関のウェブサイトの網羅的な収集を開始した。
- (3) 平成21(2009)年6月、著作権法の改正により、国立国会図書館は保存のためであれば劣化を待たずに著作権者の許諾なく複製(=デジタル化)できることが明確化された。





普及し始めた頃の社会の空気のようなものを垣間見ることができて興味深かったです。

**A** 電子図書館の初期の構想とかを読んだのですが、今も達成できていない部分があるくらい、かなり崇高なことが掲げられていて、刺激的でした。今仕事をしていると、既製品としてできあがった形しか見ていないですけど、本当に実現したいものは何だったかと。立ち返ることができる点として、歴史を振り返ることはいい経験になったなと思っています。

**E** 過去にうまくいかなかった発想を繰り返さないために、歴史を知るのには有用だと思いました。特に利用者サービス系では、発想が大事だと思っています。たとえば専門部門を一部集約したほうがいいのか、専門性を高めた個別のサービスにしたほうがいいのか、組織改編も含めて何回も何回も繰り返さないために（笑）。

**C** 国会サービスを取り巻く環境としては、情報通信技術が発展し、議員の方や秘書の方も会議録検索シ

テムや新聞のデータベースを使って自分で調査できるようになったので、当館にはより高度な調査が求められる傾向になっていくかと思っています。また、以前は調査結果の資料を取りに来てもらっていたんですけど、今は資料配送サービスの担当スタッフが届けるようになって、議員の方や秘書の方と距離ができてしまうのではという心配もありました。その分、議員の要望調査を行ったり、議員・秘書向けの政策セミナーを開催したり、よりきめ細やかなサービスへと変化しているなと感じました。

**A** 先日、後輩と話していたとき、それ七十年記念館史で読んだやつだ、歴史的にはこういう意義があるんだよ、と解説できました。

**C** 職員向けの研修があるといいですよ。館の歴史を一から学ぶ、みたいな。

——月報でもやりたいと思っています。  
**D** そうそう、一番最初に、全館に「関係文書を出してください」みたいな呼びかけがありましたが、その後、改めて「こういう文書残って

いませんか」というのをある部署に問い合わせたら、開かずのキャビネがあつて昔々の文書が出てきたということがあったんですよ（笑）。こういう機会で文書が掘り起こされたり、館の歴史が共有されていくのは良いことだな、と。

**E** 過去のメールを参照したこともありました。

**B** 関係した先輩方に会議の記録を持っていませんと聞いたら、ごそつとくれたりもしました。

**E** おそらく100年史では100年分をトータルで振り返ることになるのかと思います。その際の分析や評価は30年後の価値基準になるので、今回の七十年記念館史での分析や評価とはまた大きく違ってくるのかなと。だからこそ、70年のタイミングで振り返ったことは、大変意義のあることだったと思います。

——そうですね！ しんどかったけど、最終的には有意義だった、そして楽しかったということですよね、いいでしょう。

**B** そう思っておいたほうが心の平穏を保つためにも良さそうですね（笑）。



(1) 調査及び立法考査局。  
(2) 「21世紀を展望した我が国の納本制度の在り方—電子出版物を中心に—」。CD-ROM等のパッケージ系電子出版物を納本制度で収集することを提言したものの。



## あの人蔵書

## 白井文庫

豊田さおり

## 白井光太郎の履歴

白井光太郎は、明治から昭和にかけての植物学者です。幕末の文久3（1863）年、福井藩士の子として江戸の藩邸内に生まれました。「光太郎」

は前藩主松平慶永（号春嶽 1828-1890）による命名で、幼少時は春嶽に可愛がられ、毎夕英語の手ほどきを受けていたそうです。明治15（1882）年、東京大学理学部に入學し、植物学を専攻します。在学中には考古学にも興味を持ち、級友の坪井正五郎（1863-1913）とともに「じんるいかくのとも」（日本人類学会の前身）を創設、明治17（1884）年には最初の弥生式土器を発見といった逸話があります。

明治19（1886）年に帝国大学理科大学植物学科を卒業後、東京農林学校（のち帝国大学に合併して帝国大学農科大学）の教職に就き、明治32（1899）

年から明治34（1901）年にかけてはペルリンに留学しました。帰国後は、東京帝国大学に世界で初めて開設された植物病理学講座の初代教授となります。

白井は、専門の菌類学・植物病理学だけでなく、江戸時代の本草学研究に力を注いでいました。明治以降、本草関係の書物の海外流出を惜しみ、積極的に収集しています。この蔵書をもとに、明治24（1891）年には、日本における博物学発展の歴史を初めて系統的にまとめた『日本博物学年表』（初版）を出版しました。大正14（1925）年に東京帝国大学を退官した後も精力的に活動していましたが、昭和7（1932）年、老化防止に服用していた漢方薬の調合を誤り急死しました。

## 白井文庫の概要

当館の前身の一つである帝国図書館

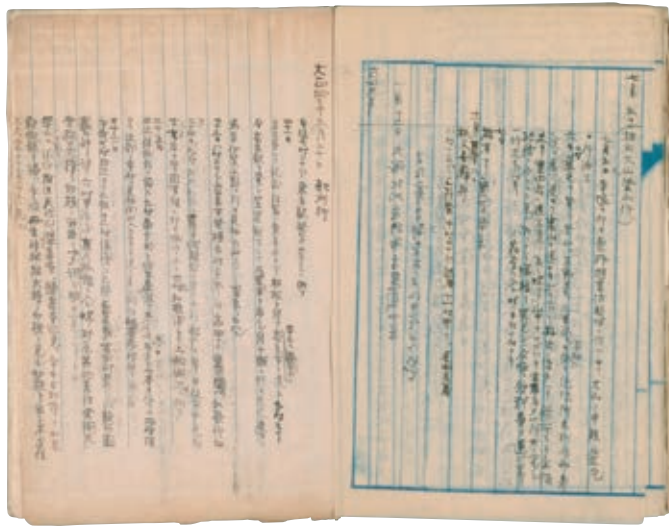
は、昭和15（1940）年から昭和17（1942）年にかけて、白井の旧蔵書約6,000冊を購入しています<sup>(1)</sup>。白井の弟子の昆虫学者矢野宗幹（ひのちのむね）（1884-1970）<sup>(2)</sup>の斡旋によるもので、当時の評価額よりも安価で、しかも3か年の分割払という好条件でした。当時受取りに向いた職員は、土蔵の中の貴重な書物に、赤、青、黄、色とりどりのかびが生えているのを見て、さすが本草学者の手沢本は生えるかびも違うと感嘆したと回顧しています<sup>(3)</sup>。その後、昭和51（1976）年には、遺族から白井の日記や自筆稿本類が寄贈されました。伊藤文庫と並び、当館の誇る本草関係コレクションの一つです。





## 旅日記

明治14（1881）年から昭和3（1928）年までの旅行をまとめた記録です。巻頭には家族の情報や、大卒卒業までの履歴も記載されています。大正4（1915）年の紀州旅行では、親交のあった博物学者南方熊楠（1867・1941）と会い、昼食時に熊楠がビールを6本飲んだことまで記しています。日本各地への植物採集旅行やベルリン留学時の記録も含まれ、旅という切り口で白井の生涯を一覧できる資料です。



### ■『礫水子旅行日程』

白井光太郎 自筆 [1881-1928]

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2537127>

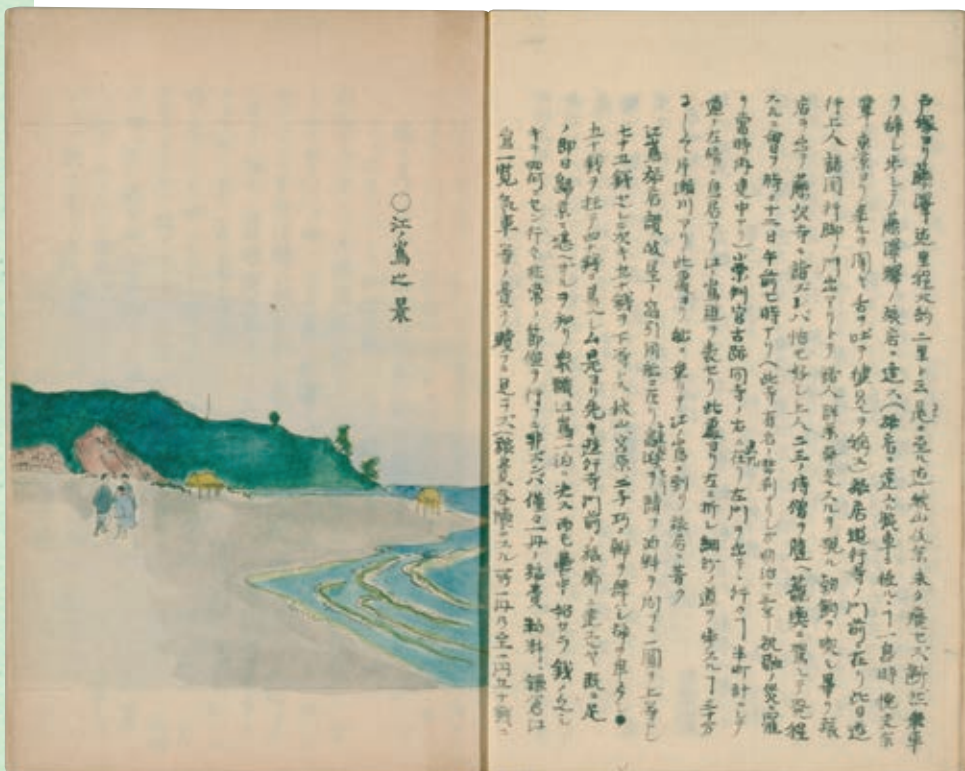
### ■『江島鎌倉紀行』

白井光太郎 自筆 1881

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2537113>

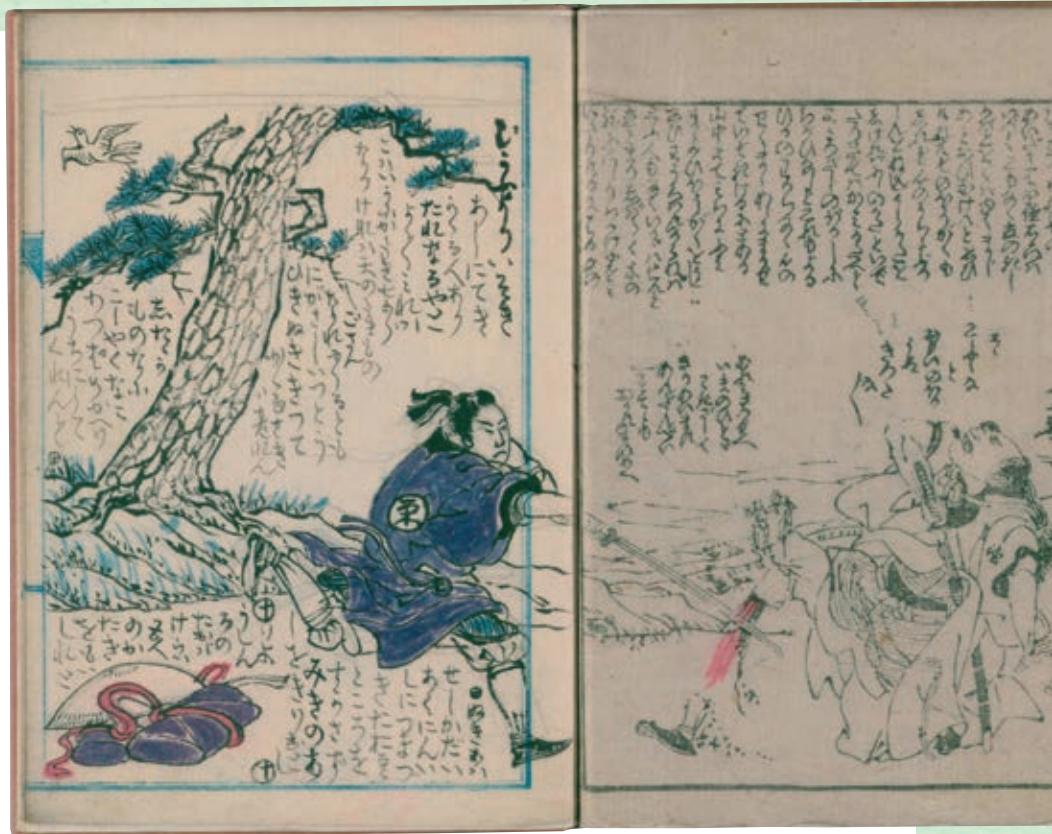
東京大学予備門時代の夏休み、級友8人で鎌倉・江の島に行った時の記録。汽車にも人力車にも乗らない徒歩旅行を計画して意気揚々と出発したものの、空腹と疲労に負けた友が次々脱落して人力車に乗る中、白井は「断然乗車を辞し」歩き続けま

した。後に採集旅行で日本各地を巡った健脚がこの頃からうかがえます。旅費が足りず宿賃の値下げ交渉をしたり昼食を抜いたり、貧乏旅行の様子を自作の絵や狂歌を添えてユーモラスに綴っています。





後半が欠けている黄表紙に、白井がオリジナルの文章と絵を書き足した。白井は幼い頃から絵を得意としており、画業で身を立てようと思ったこともあるそうです。



自作 ← →元の黄表紙

# ■『ゆめの手まくら』

[待名斎今也 作]、[歌川豊広 画] [和泉屋市兵衛] [享和4 (1804)]

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2536876>

自作の黄表紙

# ■『菌草譜図』

白井光太郎 自筆、ヘンニングス 鑑定 1931

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2541314>

自作の図譜

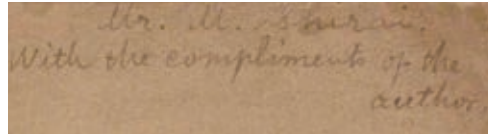
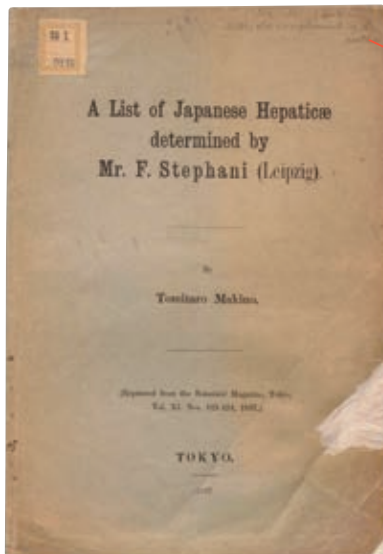


白井の描いたキノコの図譜。『信陽菌譜』などの書物から採った図と、自身が各地で写生した図が集められています。白井はベルリンに留学した際、菌類学者ヘンニングス (Paul Christoph Hennings, 1841-1908) に学名の鑑定を依頼し、一部の図にはヘンニングスがペンで学名を書き込みました。

*Corrinella Andromeda*



## 牧野富太郎との交流



■ A list of Japanese Hepaticae determined by Mr. F. Stephani (Leipzig) 牧野富太郎 著『植物学雑誌』11 (123-124) 1897 抜刷  
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1678672>

植物学者牧野富太郎（1862・1957）によるコケ類の目録の抜刷。表紙右肩には英文で著者進呈の旨が記されています。白井と牧野は同時期に大学の植物学教室で学び、後年まで仲が良かったそうです。

■ 『シイボルト肖像』  
 岩崎灌園 自筆 文政9 [1826]  
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2543107>



ドイツ人医師シーボルト (Philipp Franz Balthasar von Siebold, 1796 - 1866) の肖像。文政9 (1826) 年、幕臣の本草学者岩崎灌園 (1786 - 1842) が江戸に滞在していたシーボルトを描いたスケッチで、身に着けていた上着などの素材を絵の傍らにメモしています。『日本博物学年表』(増訂版) の図版ではこれを反転した模写のような肖像が掲載されています (おそらく白井の筆によるものと思われます)。元は牧野富太郎が購入し白井に進呈したのですが、礼を言われたことがないと牧野が書き残しています。<sup>6)</sup>

### 白井の逸話その1

- ・人類学者坪井正五郎とは仲が良く、学生時代はしばしば連れ立って発掘に出かけています。坪井の狂歌「遺跡にてよき物獲んとあせるとき 心は石器胸は土器土器」から楽しさが伝わってきます。
- ・西洋嫌いの白井は、学生時代も制帽をかぶらず、歩く時はわざわざ帽子に紐を付けて首からぶら下げていました。
- ・西洋嫌いなのにベルリン留学を命じられた白井、滞在中にパリ万博を見に行つて日本の展示に憤慨したり、最後はストレスのためか神経衰弱で入院してしまいます。
- ・大食漢かつ甘党で、夕飯を食べた後に汁粉屋に入ることもしばしばあったそうです。
- ・いつもは時間厳守の白井ですが古書の収集は最優先だったようで、教え子の証言によれば、早朝誰も来ないのを狙って古本市に行き、その結果講義に遅れたこともあったとか。
- ・大学を辞めてからは、日本の本草学の研究に専念できてよかったと周囲に洩らしていました。
- ・自分はたくさん本を買っているのに、夫人が着物を買うと馬鹿らしいと嫌味を言ったりしたそうです。



## 本草資料

中国明代の本草学研究書。動物・植物・鉱物約1,900種の名称や薬効、処方例などを記載した大著で、日本の本草学に大きな影響を与えた。掲載資料は日本で最初に翻刻された版ですが、白井文庫には他の刊本も多数収められています。白井は日本語完訳本『頭註国訳本草綱目』の監修・校注を担当し、序で『本草綱目』は「医薬に関する無比の宝典」と評しています。

■『本草綱目 53 卷 瀕湖脈学 1 卷 奇経八脈攷 1 卷』

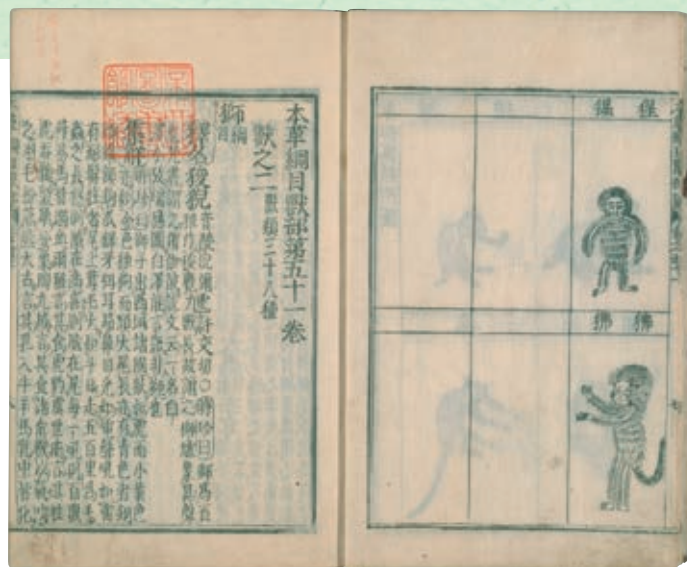
(明) 李時珍 撰 野田弥次右衛門 寛永 14 [1637]

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2609005>

■『本草図譜 巻 5-96』

岩崎灌園 著 刊写入交

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1288478>



上が狸々、下が狒々で、今でいうオランウータンとオナガザルと思われます。収録されているということは薬の材料になったのでしょうか。ちなみに、この挿絵は中国の初版本から写したようですが、あまりにゆるいイラストだったので、これより後の和刻本（特 1-862 など）では描き直されています。

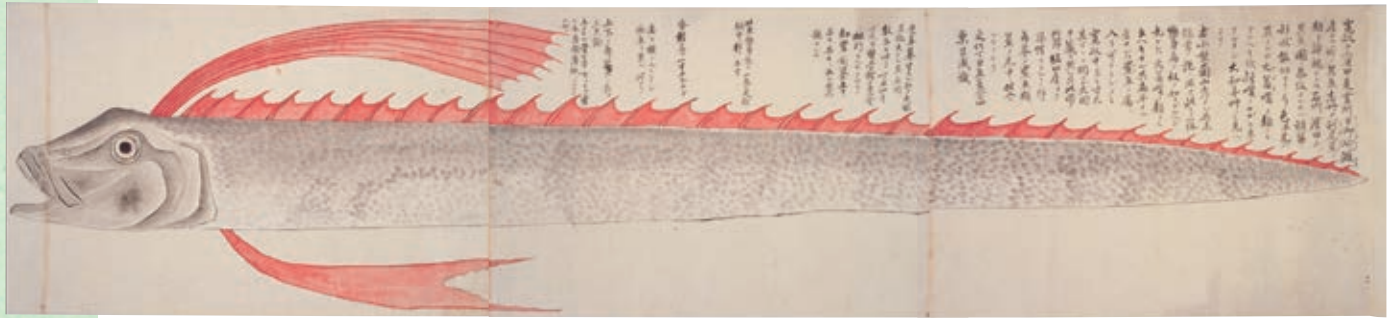
江戸時代を代表する植物図鑑。岩崎灌園による大作です。文政 11 (1828) 年に原本が完成し、巻 5 から巻 10 までは文政 13 (1830) 年に出版されましたが、巻 11 から巻 96 までは手書きで作成され、希望者に予約頒布されました。白井文庫の『本草図譜』は、巻 5 から巻 8 ままでが刊

本、巻 9 以降が写本で、信濃飯山藩主本多助賢（1791・1858）に配布されたものです。なお、『本草図譜』全巻が木版で刊行されたのは大正時代になってからですが、大正版の各冊末尾には、白井が和名を考訂した『本草図譜名疏』が付されています。

### 白井の逸話その 2

- ・南方熊楠とは共に神社社会反対運動を行う同志でしたが、なかなかうまくいかないので熊楠（となぜか息子も）が剃髪して白井に詫言たり、外国人に力を借りると言った熊楠に西洋嫌いの白井が怒って絶交状を送りつけたり、いくつか逸話が残っています。
- ・毒舌家の熊楠ですが、白井の悪口は言わず「至誠の人」と評していました。白井の急死を知った熊楠は自室に籠り一日読経していたといひます。





### ■『写生物類品図』

写 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1286929>

珍奇な動植物の24点の図集。掲載箇所は寛政12（1800）年に捕獲された深海魚リユウゲウノツカイの図です。

### ■『水虎十式品之図』

坂本浩雪 鑑定、坂本純沢 縮図 林奎文房 潤暉〔江戸後期〕

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2543033>

江戸後期の医師坂本浩然（1800・1853）・純沢（生没年不詳）兄弟によるカッパ（水虎）12種の図。猿に似た顔、生臭い、相撲を好むなどの特徴も書かれています。



1 購入時の帝国図書館の文書をデジタル化し、インターネット公開しています。『白井博士蒐書購入ノ為予算増額申請の件・白井文庫蔵書ノ一部購入ニ関スル事件書類』<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11447473>

2 当館では、矢野とその弟子の長谷川仁（1918-2006）の収集した本草学・博物学関係資料 217 件を所蔵しており、中には白井の関係資料も含まれています。リサーチ・ナビ「矢野宗幹・長谷川仁旧蔵資料」[https://rnavi.ndl.go.jp/research\\_guide/entry/Yano-Hasegawa.php](https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/Yano-Hasegawa.php)

3 岡田温「本草関係図書目録の後に」（『国立国会図書館支部上野図書館所蔵本草関係図書目録 下』国立国会図書館支部上野図書館 1953）

4 本草学者伊藤圭介（1803-1901）の収集した本草学関係書約 2,000 冊。リサーチ・ナビ「伊藤文庫」[https://rnavi.ndl.go.jp/research\\_guide/entry/theme-honbun-304005.php](https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-304005.php)

5 豊田さおり「今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から ゆめの手まくら—白井光太郎作画の黄表紙」『国立国会図書館月報』（599）2011.2

6 「二十四歳のシーボルト画像」（『植物一日一題 随筆』【470.49-M162s2】所収）

7 同じく白井文庫の『本草図譜記』には、頒布先のリストが記載されています。『本草図譜記』岩崎灌園 自筆 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2536967>

### ■参考文献

『白井光太郎著作集 第1巻 - 第6巻』木村陽二郎 編 科学書院 1985-1990【RA211-85】

『南方熊楠大事典』松居竜五、田村義也 編 勉誠出版 2012.1【GK83-J65】

『日本博物誌総合年表 総合年表編』磯野直秀 著 平凡社 2012.4【M2-J68】

『日本博物誌総合年表 索引・資料編』磯野直秀 著 平凡社 2012.4【M2-J69】

### ■白井文庫の利用について

白井文庫の資料は請求記号が「特1」から始まります。和漢書は東京本館古典籍資料室で所蔵しています。ほぼ全てがデジタル化され、大半はインターネット公開されています。また、洋書の多くは関西館で所蔵しており、一部がデジタル化されています。



# より便利に！ 国立国会図書館の書誌データ

こんにちワン！ ぼく、カーネ。国立国会図書館（NDL）の書誌データ提供サービスの広報犬です。NDLでは所蔵資料の書誌データを作って、みんなが使えるようにしているんだ。今年始まった新サービスを中心に、書誌データの役立つ使い方、ご紹介します。



## 書誌データは誰でもダウンロードして加工 OK！

自館の資料の目録データを作りたいけど、人手・時間が足りない……

寄贈された古い資料や自費出版資料、目録の取り方に迷うなあ……

NDLの書誌データを使ってアプリを作りたい！ もっと簡単に使いたい！

NDLの書誌データを図書館のシステムに取り込んで、目録データとして使えるよ！

## 国立国会図書館サーチ



利用は誰でも無料！

国立国会図書館サーチ（NDLサーチ）の書誌詳細画面から書誌データをダウンロードできます。

- ・取得は1件単位
- ・データ形式は、DC-NDL (RDF) / JSON 形式 / MARC 形式 / MARC タグ形式

👉 **MARC形式 / MARCタグ形式のダウンロードは2021年1月開始の新サービス！**



そのほか、「JAPAN/MARC データ(毎週更新)」のページから1週間単位のMARC形式データをダウンロードするなど、複数の方法があります。ISBNやキーワードなどで書誌データを検索して、まとめてダウンロードできるツール（Excel版）もご希望の方に提供しています。



API（外部提供インタフェース）も使えるよ！



※利用の条件については、ホームページの「書誌データの利用ルール」(<https://www.ndl.go.jp/jp/use/metadata/index.html>)をご確認ください。

## 新サービス！

タイトルや著者名ではなく  
「著作」という概念で検索できる！

「国立国会図書館典拠  
データ検索・提供サービス」  
(Web NDLA) が便利！



「著作」「ジャンル・形式  
用語」の提供が始まりました！

「源氏物語」の翻刻や口語  
訳をまとめて探したい！



タイトルに「源氏物語」が  
入っていない作品もあるし…

キーワード検索だと「源氏物語」  
を研究した論文も含まれちゃう…

Web NDLA Authorities  
国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス

キーワード検索 分類記号検索 典拠ID検索

検索対象  
※すべて ○ 名称のみ ○ 筆名・題名のみ

検索

Web NDLA でたとえば「源氏物語」で検索すると…

源氏物語  
← 源語; 光源氏物語

五十嵐博士源氏物語刊行会

宇治市源氏物語ミュージアム

源氏絵  
← 源氏物語絵

源氏物語

|              |           |
|--------------|-----------|
| ID           | 00633493  |
| 典拠種別         | 著作        |
| 名称/タイトル      | 源氏物語      |
| 名称/タイトルのカナ読み | ゲンジ モノガタリ |

国立国会図書館のサービス  
以下のリンクボタンから国立国会図書館オンライン  
で検索ができます。

著作検索  
件名検索

「源氏物語」を含む著者名等のほかに、「源  
氏物語」という著作そのものがヒットします。

Web NDLA の「著作検索」をクリックすると、国立国会  
図書館オンラインの検索結果一覧にジャンプ (2020 年  
12 月までは NDL サーチ)。  
著作「源氏物語」を具体化した資料 (翻刻、口語訳など)  
の書誌データが一覧できます。



検索結果 603 件中 1-20 件を表示

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603

1 源氏物語 2 源氏物語 (神田文庫) 1218-9  
1888 (明治21) 東京 東京堂 1218.9 40284-40284

2 源氏物語 2 源氏物語 (神田文庫) 1218-9  
1888 (明治21) 東京 東京堂 1218.9 40284-40284

3 源氏物語 3 源氏物語 (神田文庫) 1218-9  
1888 (明治21) 東京 東京堂 1218.9 40284-40284

4 源氏物語 4 源氏物語 (神田文庫) 1218-9  
1888 (明治21) 東京 東京堂 1218.9 40284-40284

5 源氏物語 5 源氏物語 (神田文庫) 1218-9  
1888 (明治21) 東京 東京堂 1218.9 40284-40284

6 源氏物語 6 源氏物語 (神田文庫) 1218-9  
1888 (明治21) 東京 東京堂 1218.9 40284-40284

7 源氏物語 7 源氏物語 (神田文庫) 1218-9  
1888 (明治21) 東京 東京堂 1218.9 40284-40284

8 源氏物語 8 源氏物語 (神田文庫) 1218-9  
1888 (明治21) 東京 東京堂 1218.9 40284-40284

9 源氏物語 9 源氏物語 (神田文庫) 1218-9  
1888 (明治21) 東京 東京堂 1218.9 40284-40284

10 源氏物語 10 源氏物語 (神田文庫) 1218-9  
1888 (明治21) 東京 東京堂 1218.9 40284-40284

すごいね！



覚えておこう

### 「著作」

作品のアイデア自体を表し、原著とその翻訳書、復  
刻版などをひとつにまとめるもの。  
導入当初は復刻・翻刻または口語訳・現代語訳され  
た古典作品の原著、日本語訳のタイトルが複数存  
在する近現代の作品の原著の典拠を作成します。

### 「ジャンル・形式用語」

資料の内容の類型や様式を言葉で表すもの。導入当初  
は「漫画」「児童図書」「LLブック」「議会資料」を運  
用します。

※「著作」「ジャンル・形式用語」とも、開始当初は、  
2021 年 1 月以降に新規作成する書誌データのうち、  
国内刊行図書および外国刊行和図書の一部について  
適用。順次範囲を拡大します。ご期待ください。

※国立国会図書館の書誌データについて今回ご紹介した内容や、さらに詳しい情報は、ホームページの「書  
誌データの提供」([https://www.ndl.go.jp/jp/data/data\\_service/index.html](https://www.ndl.go.jp/jp/data/data_service/index.html)) をご覧ください。



# NDL Topics

古典籍、憲政資料等を「国立国会図書館デジタルコレクション」に追加しました

国立国会図書館は、デジタル化資料約7,600点を「国立国会図書館デジタルコレクション」に追加しました。

「国立国会図書館デジタルコレクション」で提供するデジタル化資料の総数は、今回追加した資料を含め、約276万点です。

国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/>) に追加した資料 (3月16日)

| コレクション    | 追加数     | 公開*                 |
|-----------|---------|---------------------|
| 古典籍資料     | 約300点   | インターネット             |
| 憲政資料      | 約2,600点 | インターネット<br>(一部館内限定) |
| 日本占領関係資料  | 約2,500点 |                     |
| プランゲ文庫    | 約1,800点 | 館内限定                |
| 録音・映像関係資料 | 約200点   |                     |
| 地図        | 約300点   | インターネット<br>(一部館内限定) |

\* 本文をインターネット公開していない資料についても、書誌事項(タイトル、著者等)はインターネットから検索できます。

資料のデジタル化に伴う原資料の利用休止について

国立国会図書館では、所蔵資料の保存と利用の両立を図るためデジタル化による媒体変換を行い、作業が終了した後は、原資料に代えてデジタル化資料を提供しています。このデジタル化作業のため、次のとおり一部の資料の利用を休止します。

利用休止予定期間

令和3年6月21日～令和5年1月4日

・東京本館所蔵の和図書 約41万冊

(昭和44年1月から昭和62年12月までに整理された和図書の一部)

※対象資料は順次利用を休止します。ご利用いただけない資料は、国立国会図書館オンラインの書誌詳細画面の所蔵一覧上に、「作業中 デジタル化のため」の表示でお知らせします。事前に検索してご確認ください。

※詳細については 国立国会図書館ホームページの資料の保存・資料デジタル化について・デジタル化作業に伴う原資料の利用休止についてに掲載しています。

ご不便をおかけしますが、国民の文化的資産を後世に伝えるため、ご理解とご協力をお願いいたします。

新刊案内

外国の立法 立法情報・翻訳・解説 第287号

アメリカの人身取引対策に関する法整備の現状―被害者の保護を中心に―  
EUのアクセシビリティ指令  
イギリスの離婚等に関する法改正



A4 118頁 季刊 1,800円 (税別)  
ISBN 978-4-87582-878-5  
発売 日本図書館協会

レファレンス 843号

償却資産に対する固定資産税の何が問題か―課税ベースの地域間移動と租税競争の可能性―  
英国における終末期ケア―近年の政策・制度の動向―  
衆議院及び参議院における一票の格差―平成21年以降の最高裁判所判決を踏まえて―  
欧米主要国における法人税改革の経緯と動向(資料)



A4 103頁 月刊 1,000円 (税別)  
発売 日本図書館協会

※『レファレンス』842号は臨時増刊のため、一般発売されません。ホームページもしくは図書館等でご利用ください。

入手のお問い合わせ  
日本図書館協会  
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14  
電話 03(3523)0812

報告書『青少年をめぐる課題』、『コロナ時代のソーシャルメディアの動向と課題』、『ゲノム編集の技術と影響』、『高齢者を支える技術と社会的課題』を刊行しました

調査及び立法参考局が令和2年度に行った調査プロジェクトの成果として、次の4冊の報告書を刊行しました。

## 【総合調査】

『青少年をめぐる課題』（調査資料2020・3）

我が国の社会は、少子高齢化やグローバル化の進展、情報技術（IT）の発展、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響などにより、大きく変容しています。青少年問題については平成21年2月に刊行した総合調査報告書でも取り上げましたが、それから約10年が経過し、青少年を取り巻く状況と課題も大きく変化しています。

今回の総合調査では、こうした現状を踏まえつつ、青少年と憲法（未成年者の人権、世代間の一票の格差、SNSと児童の性被害、消費者教育、金融教育、在日外国人の子どもの教育、若年雇用政策、若者と観光の8つのテーマについて調査を行いました。

## 【科学技術に関する調査プロジェクト】

『コロナ時代のソーシャルメディアの動向と課題』（調査資料2020・4）

本報告書は、令和2年11月12日にオンライン開催したシンポジウム「コロナ時代のソーシャルメディアの動向と課題」の記録集です。新型コロナウイルスの感

染拡大に伴って生じたフェイクニュースの流布とユーザ行動に関するデータ分析を題材とし、社会心理学、憲法学、技術倫理等の様々な観点から議論しました。平和博氏、鳥海不二夫氏、三浦麻子氏、曾我部真裕氏、板倉陽一郎氏、久木田水生氏による報告、水谷瑛嗣郎氏によるコメントに加えて、パネルディスカッションの記録及び平氏による解説を掲載しています。

『ゲノム編集の技術と影響』（調査資料2020・5）

ゲノム編集技術は、生物の遺伝子の持つ塩基配列の狙った箇所を酵素で切断し編集する技術であり、既に農水畜産物の育種や遺伝子治療への応用が試みられています。また、バイオテクノロジーにより持続的な経済成長と地球環境の保全を両立させようとする「バイオエコノミー」の鍵となるとも考えられています。

本報告書では、ゲノム編集技術の概要、研究開発の動向、農業・医療・化学等の各分野における社会実装の現状と技術的課題、法規制や政策面の課題、倫理的課題等について、最前線で研究に携わる学識経験者の方にも参画いただきながら、整理を試みています。

『高齢者を支える技術と社会的課題』（調査資料2020・6）

高齢者の生活を支える技術は、車いすや特殊寝台等の福祉用具から、情報支援デバイス、コミュニケーションを支援するロボットまで広く発展しています。これらの技術には、その耐久性や安全性の保証とともに、高齢者の心身機能の改善や生活の質の向上に資する役割が求められます。

本報告書は、高齢者の在宅での自立生活を促進する

技術に焦点を当て、技術の現状や動向、期待される機能や役割、開発や普及における倫理問題、制度的・法的課題等について整理しています。

これらの報告書を含め、国立国会図書館が国政審議の参考資料として作成した刊行物は、ホームページで全文をご覧いただけます。是非、ご活用ください。

○国立国会図書館ホームページ▽国会関連情報▽『調査資料』▽2021年刊行分  
<https://www.ndl.go.jp/diet/publication/document/2021/index.html>





## 利用者アンケートご協力をお願い

国立国会図書館が提供する各種サービスを改善するために、アンケートを実施します。

左記のアンケートページから皆様のご意見をお聞かせください。アンケートページでは、過去のアンケート結果、分析などもご覧いただけます。

### ○アンケートページ

<https://www.ndl.go.jp/aboutus/enquete/index.html>

国立国会図書館ホームページ▽国立国会図書館について▽利用者アンケート

### 利用者サービスアンケート

国立国会図書館のサービスを利用されている方々を対象としたウェブアンケートです。

※実施期間 5月6日（木）～10月31日（日）

### 各コンテンツ・サービスについてのアンケート

個別のコンテンツやサービスについての各種アンケートの実施も予定しています。

※実施期間 コンテンツ、サービスごとに異なります。実施時にアンケートページ及び各コンテンツ、サービスのページ等でお知らせします。

### ○問合せ先

総務部企画課評価係

電子メール [hyoka@ndl.go.jp](mailto:hyoka@ndl.go.jp)

## おもな人事

### △退職▽

令和3年3月31日付け

専門調査員 調査及び立法考査局長 山崎 治

専門調査員 調査及び立法考査局総合調査室主任 本吉 理彦

専門調査員 調査及び立法考査局政治議会調査室主任 廣瀬 淳子

専門調査員 調査及び立法考査局議会官庁資料調査室主任 林 雅樹

司書監 収集書誌部付 佐藤 從子

### △退職▽

令和3年3月31日付け

電子情報部長 佐藤 毅彦

主幹 調査及び立法考査局海外立法情報調査室付 三輪 和宏

### △異動▽ ※（ ）内は前職

令和3年4月1日付け

専門調査員 調査及び立法考査局長、政治議会調査室主任事務取扱（専門調査員 調査及び立法考査局憲法調査室主任） 寺倉 憲一

専門調査員 調査及び立法考査局総合調査室主任（専門調査員 調査及び立法考査局総合調査室付） 中渡 明弘

専門調査員 調査及び立法考査局総合調査室付（調査及び立法考査局次長） 樋口 修

専門調査員 調査及び立法考査局議会官庁資料調査室主任（主幹 調査及び立法考査局総合調査室付）

ローラーミカ

専門調査員 調査及び立法考査局憲法調査室主任（利用者サービス部副部長） 小林 公夫

電子情報部長（総務部副部長、企画課長事務取扱） 大場 利康

司書監 総務部付（司書監 総務部付、国際子ども図書館企画協力課長兼務） 紫藤 美子

司書監 総務部付、国際子ども図書館企画協力課長兼務（総務部副部長、総務課長事務取扱） 三浦 良文

調査及び立法考査局次長（主幹 調査及び立法考査局経済産業調査室付、経済産業課長事務取扱） 奥山 裕之

司書監 収集書誌部付（総務部副部長） 川鍋 道子

収集書誌部副部長（収集書誌部副部長、収集・書誌調整課長事務取扱） 秋山 勉

利用者サービス部副部長、サービス企画課長事務取扱（総務部副部長、会計課長事務取扱） 伊藤 克尚

総務部副部長、会計課長事務取扱（主幹 調査及び立法考査局総合調査室付、調査企画課長事務取扱） 松山 健二

総務部副部長、総務課長事務取扱（総務部人事課長） 松浦 茂

総務部副部長、人事課長事務取扱（利用者サービス部サービス企画課長） 竹内 秀樹

司書監 総務部付、関西館総務課長兼務（関西館総務課長） 野口 貴弘

主幹 調査及び立法考査局総合調査室付（調査及び立法考査局国土交通課長） 塚田 洋

主幹 調査及び立法考査局憲法調査室付、憲法課長事務取扱（調査及び立法考査局憲法課長） 南 亮一

司書監 利用者サービス部付（主任司書 利用者サービス部付） 倉橋 哲朗

# 5/6

NATIONAL  
DIET  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2021.5/6

NO.721/722

MAY/JUNE  
2021

## CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>  
*Perusha shinwa*—Young poet of the Araragi school and heroic epic of Iran
- 06 Books not found in the NDL  
Trade catalogs of specially priced books show the reading habits of ordinary people (Part two)
- 17 *Seventy Years' History of the National Diet Library* is published
- 24 The Personal Libraries of Well-Known People (4)  
The SHIRAI Collection
- 30 More useful features of bibliographic data from the National Diet Library
- 16 <Books not commercially available>  
*Gomenkudasai ashio no koto oshiete kudasai! sono 2*
- 22 <Tidbits of information on NDL>  
Time travel between 1998 and 2018
- 32 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

令和3年5/6月号 (No.721/722)

令和3年5月1日発行

発行所 国立国会図書館  
編集者 松浦茂

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
電話 03 (3581) 2331 (代表)  
FAX 03 (3597) 5617  
E-mail [geppo@ndl.go.jp](mailto:geppo@ndl.go.jp)  
<https://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。  
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。  
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<https://www.ndl.go.jp/>) > 刊行物 > 国立国会図書館月報でご覧いただけます。





NATIONAL  
D I E T  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2021.5/6

 国立国会図書館  
National Diet Library, Japan